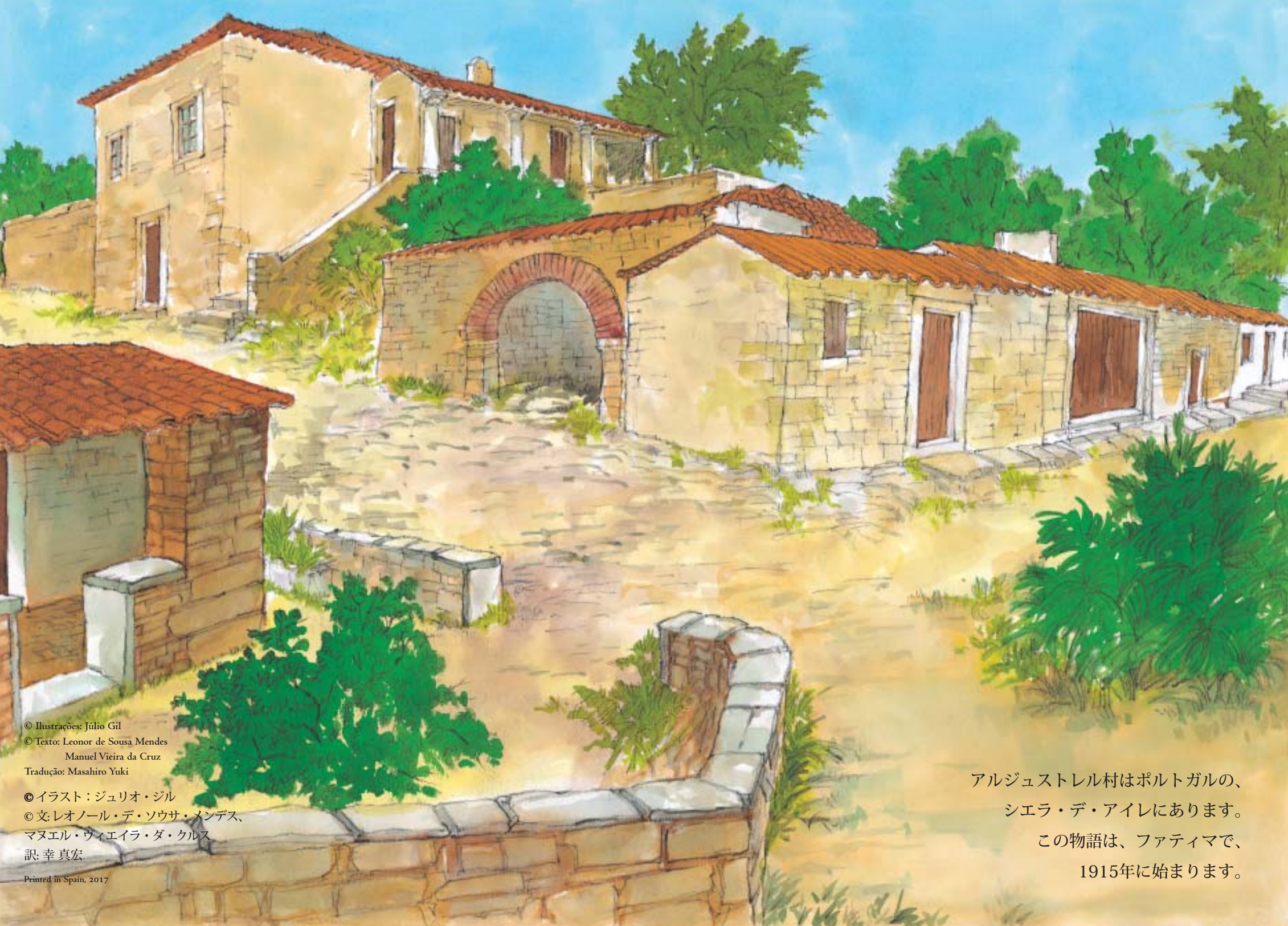
ファティマのメッセージ

イラスト：ジュリオ・ジル



アルジュストレル村はポルトガルの、
シエラ・デ・アイレにあります。
この物語は、ファティマで、
1915年に始まります。

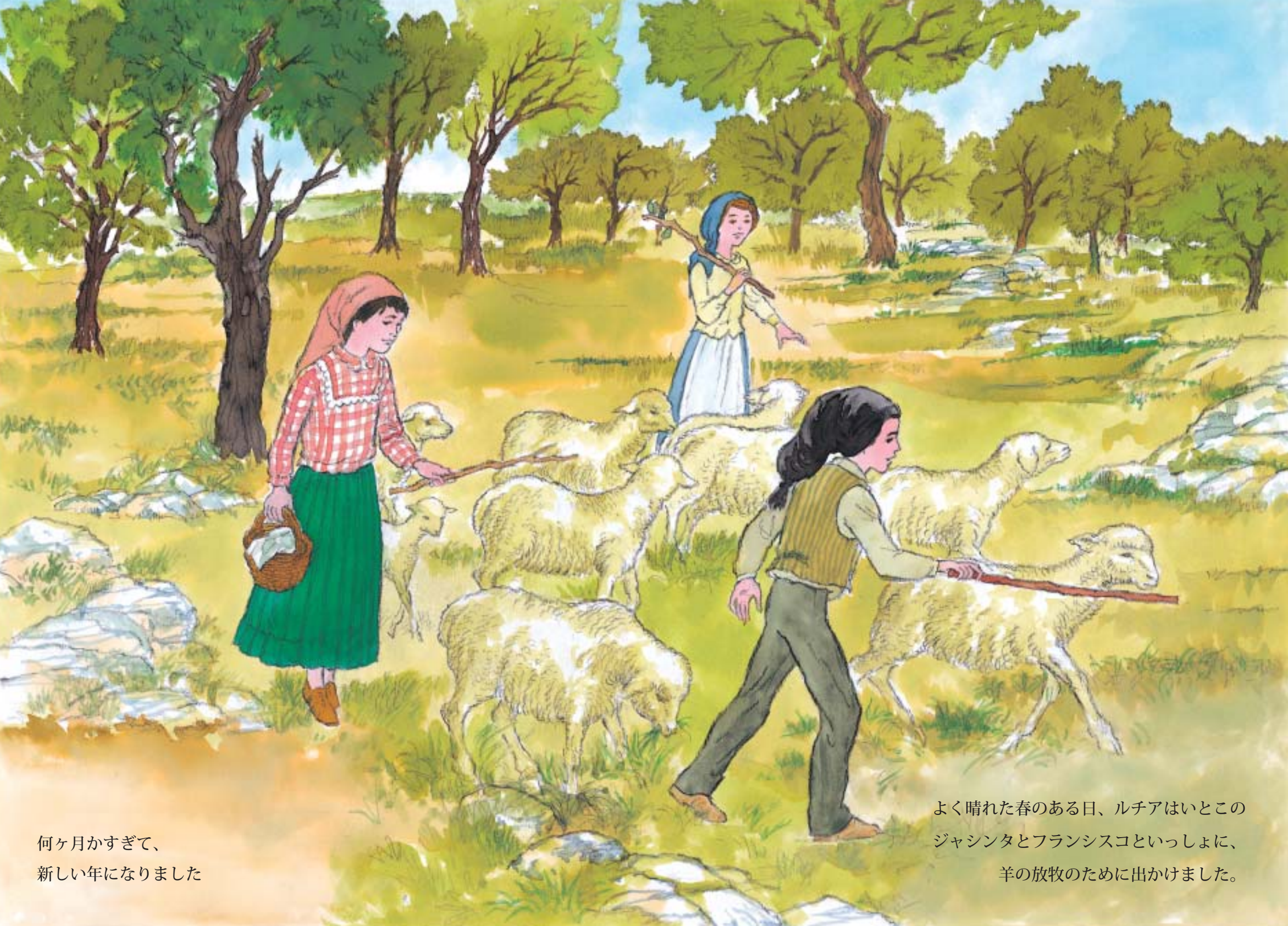
© Ilustrações: Júlio Gil
© Texto: Leonor de Sousa Mendes
Manuel Vieira da Cruz
Tradução: Masahiro Yuki

©イラスト：ジュリオ・ジル
© 文: レオノール・デ・ソウサ・メンデス、
マヌエル・ヴィエイラ・ダ・クルス
訳: 幸 真宏

Printed in Spain, 2017

ルチアという羊飼いの少女は、2人の友だちとロザリオの祈りを唱えているときに、雑木林の間に雲のようなものを見ました。それは、雪のように白く、透きとおっていて人のような形をしていました。

それから、
また2・3回に、
何も話さずに現れました。



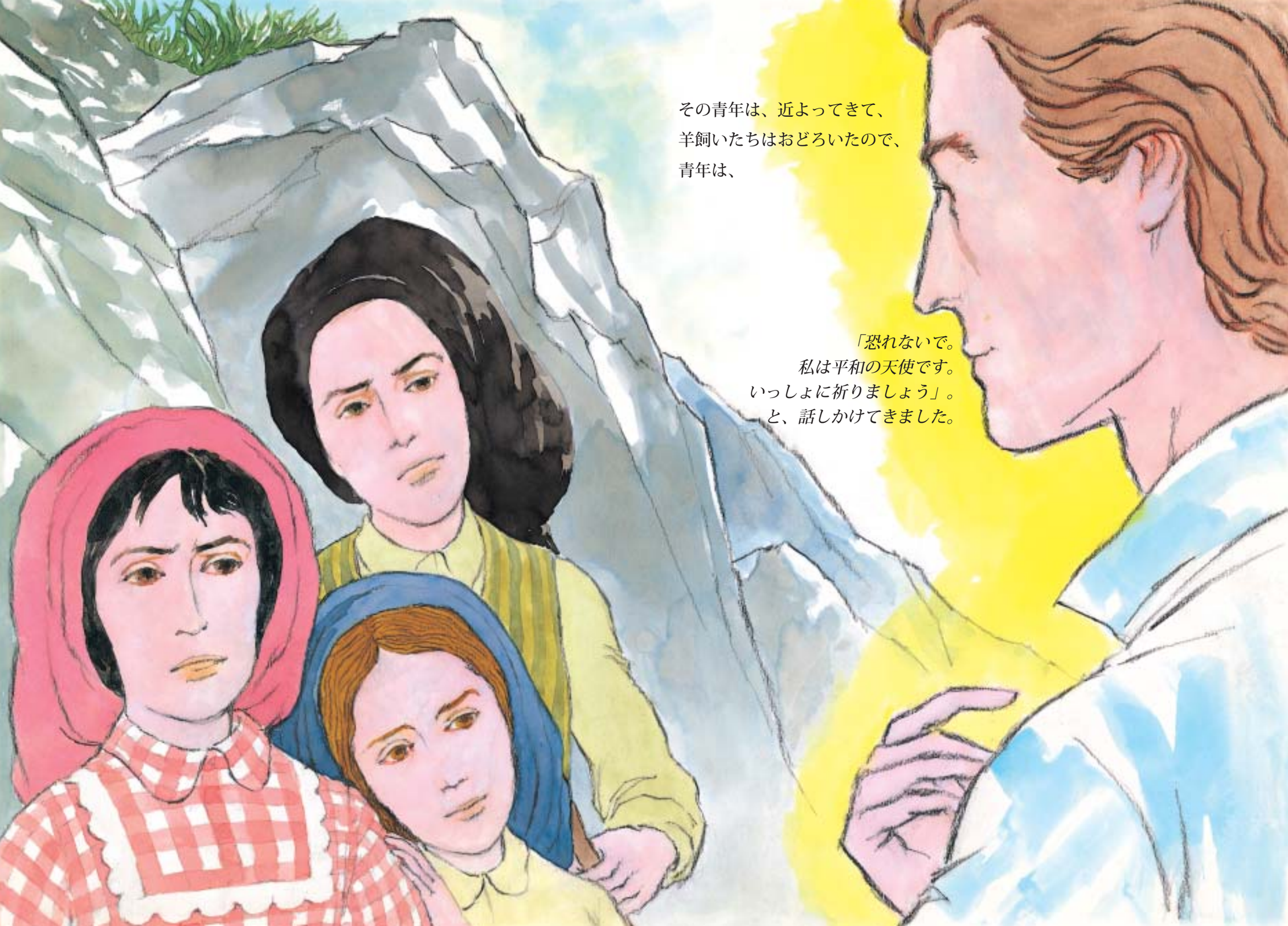
何ヶ月かすぎて、
新しい年になりました

よく晴れた春のある日、ルチアはいとこの
ジャシンタとフランシスコといっしょに、
羊の放牧のために出かけました。

お昼ごろになると、にわか雨が降り始めました。
3人の羊飼いは、こだかい丘を登って、
雨宿りできるところをさがしました。

見つけたほら穴で、おやつを食べ、
ロザリオの祈りを唱えてから、
遊びはじめました。

そのとき、
木の枝をゆらす風を感じました。
見ると、オリーブ畑に、
雪のように真っ白な青年がみえました



その青年は、近よってきて、
羊飼いたちはおどろいたので、
青年は、

「恐れないで。
私は平和の天使です。
いっしょに祈りましょう」。
と、話しかけてきました。

天使は、ひざまづいて、頭を地面に
つけるほど下げて、こう言いました。

わたしの神よ、わたしは、
あなたを信ぜず、崇めず、
希望せず、愛さない人々のために、
あなたを信じ、崇め、
希望し、愛します。

このように3回くり返し、羊飼いたちは彼といっしょに
祈りました。
天使はいなくなる前に、3人に言いました。
「このように祈りなさい。イエスとマリアのみ心は、
あなたたちの願いの声に注意を
払っておられます」。

夏のある日、お昼ごろ、子どもたちは、
井戸のそばで遊んでいると、突然、
ふたたび天使があらわれ　ました。

羊飼いたちに言いました。
「もっともっと祈りなさい！」

また、神様に、罪人の回心と平和のために、
祈りと犠牲を捧げるように言いました。
そして、彼は自分がポルトガルの守護の天使だという
ことを明かしました。

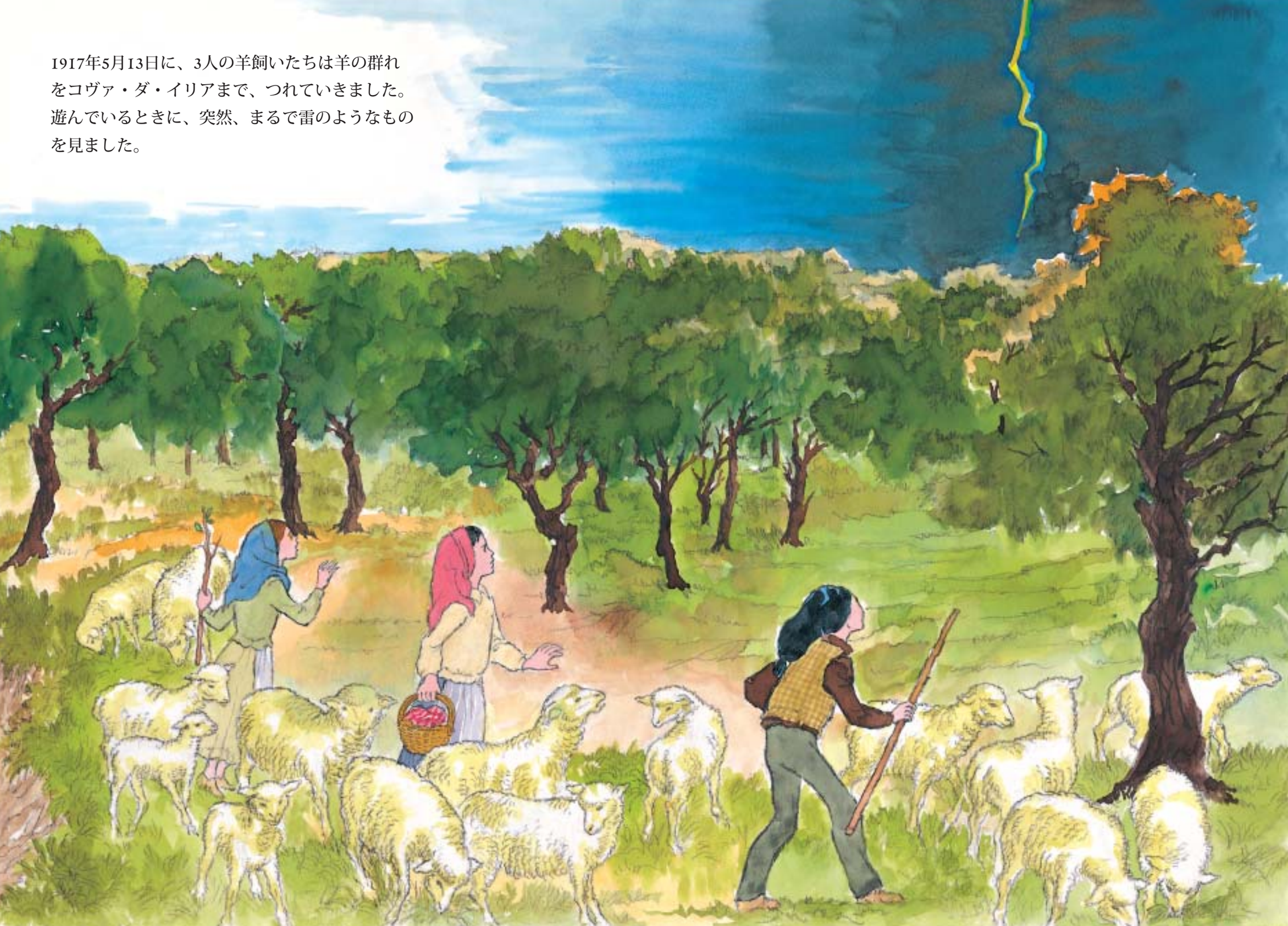
「主が、あなたたちにお与えになる苦しみを、
正直に受け入れ、耐え忍びなさ い」。

季節はすぎて、秋になりました。
ふたたび天使は、ロカ・デ・カベソ
であらわれ、どのように、聖別され
たホスチアと杯においでになる御体と
御血のイエス・キリストを礼拝するよう
に教えました。

その後、羊飼いたちは、
天使の手からご聖体をいただいて、
祈り続きました。

いとも聖なる三位一体、
父と子と聖霊よ、私はあなたに、
世界のすべての聖櫃の内
に現存されているイエス・
キリストのいとも尊い御体と御血、
霊魂と神性を、
ご自身に背かれておられる冒涜、
侮辱、無関心を償うために、捧げます。
イエス・キリストのいとも
聖なるみ心とマリアの
汚れなきみ心の無限の功徳
をとおして、わたしは、
あわれな罪人の回心を
あなたに願います。

1917年5月13日に、3人の羊飼いたちは羊の群れをコヴァ・ダ・イリアまで、つれていきました。遊んでいるときに、突然、まるで雷のようなものを見ました。



あらためて雷が鳴ると、家に帰る準備をしていたら、
ウバメガシの木の上に、全身を真っ白で、太陽よりも
明るい服をきた、貴婦人があらわれました。

その貴婦人は、羊飼いたちにこれから
6ヶ月間、13日に、同じ時間に、
来るように願いました。

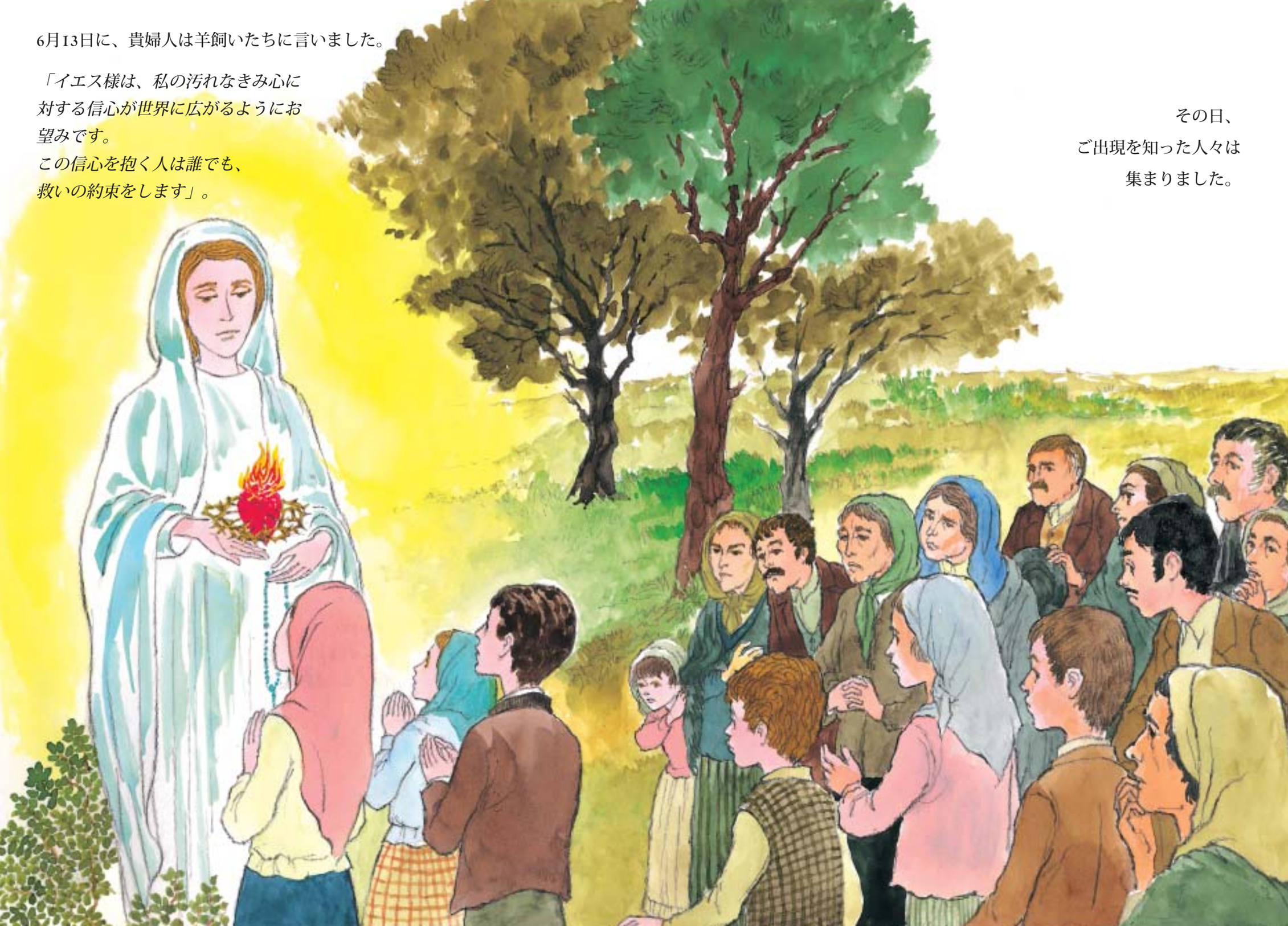
そして、
「毎日、ロザリオの祈り
を唱えてください。
世界が平和になるように、
また、戦争が終わるように」
と、願いました。

それから、静かに、東の方に
昇り始め、ずっと遠くに見え
なくなりました。

6月13日に、貴婦人は羊飼いたちに言いました。

「イエス様は、私の汚れなきみ心に対する信心が世界に広がるようにお望みです。この信心を抱く人は誰でも、救いの約束をします」。

その日、
ご出現を知った人々は
集まりました。



7月13日、貴婦人はまた現れました。

「10月に、私が何者かを皆に教えましょう。

また、皆がわたしを信じるために、奇跡も行います」。

罪人のために犠牲をするように願い、犠牲をするときには、
こう祈るようにすすめました。

「イエスよ、この犠牲は、あなたへの愛のため、罪人の回心と、
けがれなき聖母のみ心に対する罪の償いのためです」。

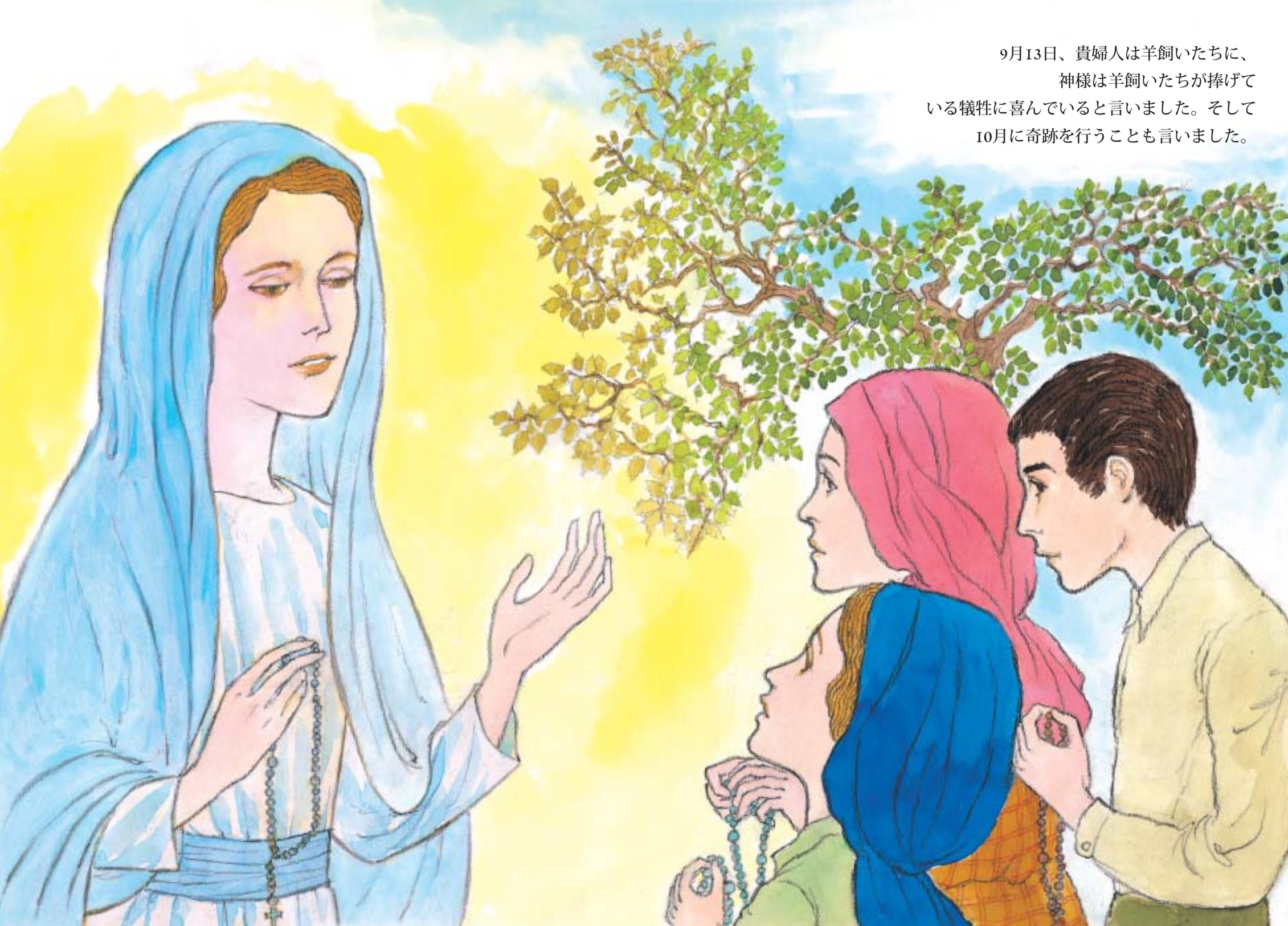
罪人の霊魂が行く地獄を羊飼いたちに見せました。
神様は、皆の救いのために、汚れなき聖母の
み心の信心が世界に広まるように望んでいます。
ロザリオの祈りの各玄義の後に、
こう祈るようにすすめました。
「主イエス・キリスト、私たちの罪をお許し下さい。
私たちを滅びから救い、すべての人々、ことに、
おん憐みを最も必要としている人々を、
天国に導いてください」。

羊飼いたちの苦しみと迫害がはじまりました。多くの人が、
かれらをあざけり、羊飼いたちがマリア様を見たこ
とを否定するように脅したので、
8月13日にはコーヴァ・ダ・イリーアに行けませんで
した。なぜなら、ヴィラ・ノヴァ・デ・オウレームの
牢屋に入れられていたからです。
ですが、羊飼いたちは、ご出現を否定しませんでした。
マリア様からお願いされたとおりに、
いつも苦しみを受け入れ、
犠牲としてお捧げしました。

8月19日に、貴婦人は羊飼いたちの家の近くにあるヴァリニョスという場所にあらわれました。

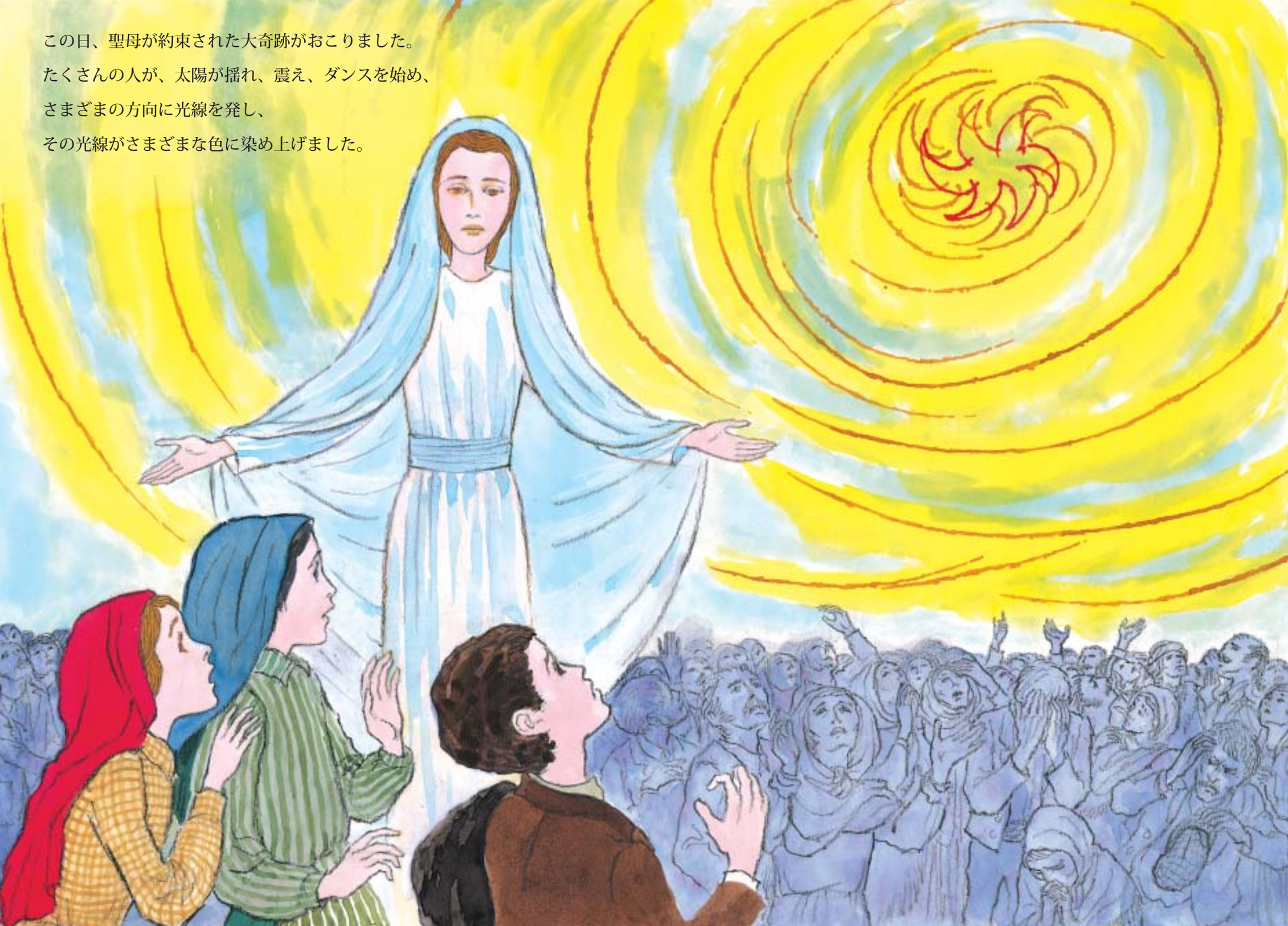
「祈りなさい。たくさん祈りなさい。そして罪人たちのために犠牲を捧げなさい。多くの人が、彼らのために犠牲を捧げ祈る人々がいないからです」。

「戦争が終わるように、ロザリオの祈りを続けなさい」。



9月13日、貴婦人は羊飼いたちに、
神様は羊飼いたちが捧げて
いる犠牲に喜んでいると言いました。そして
10月に奇跡を行うことも言いました。

やっと10月13日に、貴婦人はルチアにこのように言いました。
「私はロザリオの聖母です。私をたたえるために、
ここに教会を建たれることを望んでいます。
毎日、ロザリオの祈りを唱え続けなさい。もう、これ以上、
私たちの主に背いてはなりません。なぜなら、
すでに彼らはあまりにも主に背いているからです」。



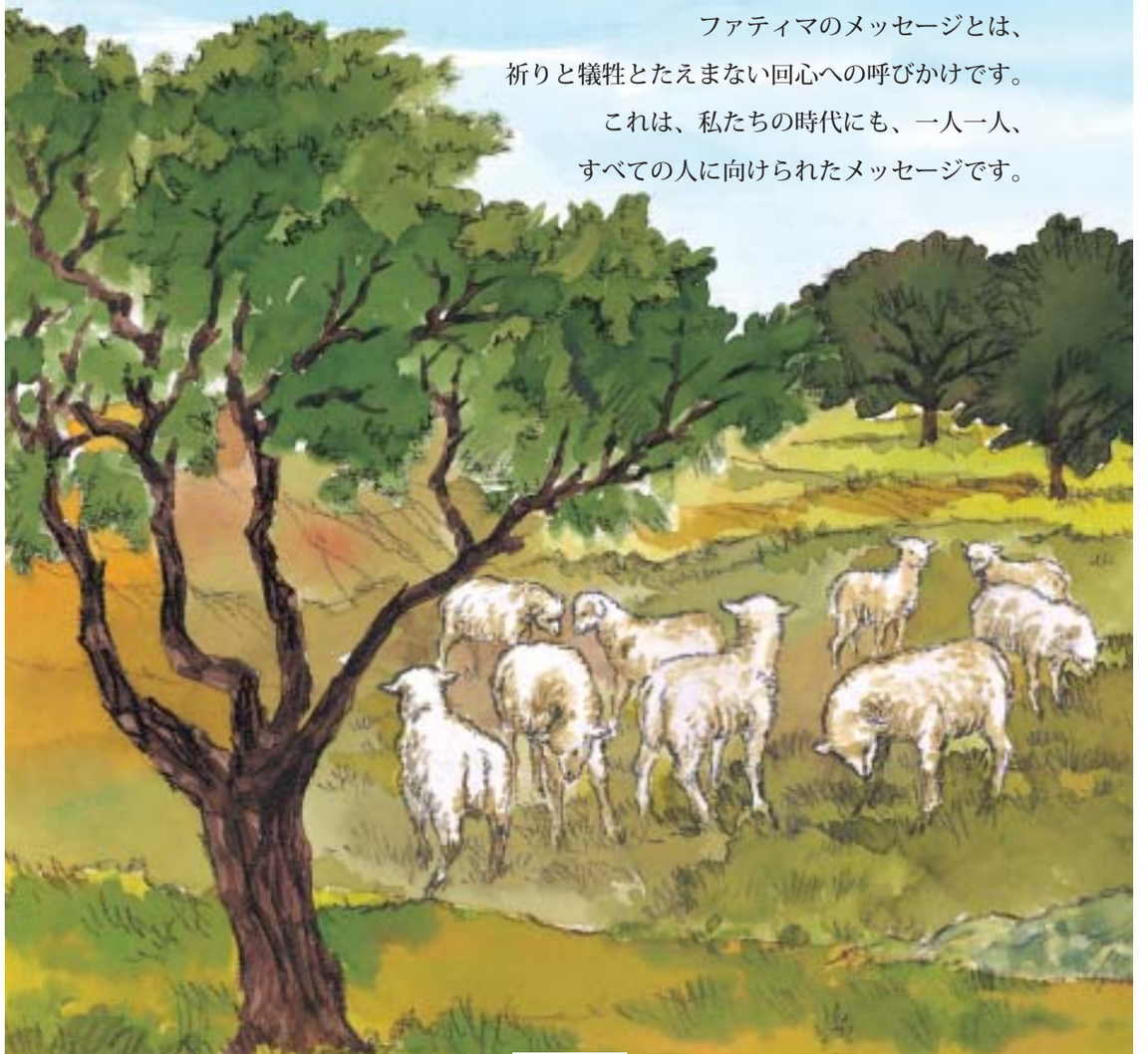
この日、聖母が約束された大奇跡がおこりました。
たくさんの人が、太陽が揺れ、震え、ダンスを始め、
さまざまの方向に光線を発し、
その光線がさまざまな色に染め上げました。

3人の羊飼いたちは、毎日ロザリオの祈りを唱え、
ほかに聖母から頼まれたことを実行しました。
彼らの心と行いに、イエス様を受け入れ、
たくましく充実した生活を送りました。

子どもたちは目には見えなくても、
イエス様はいつも聖別された
ホスチアの内においでになる
と知っていました。彼らは、
御聖体を「かくれたイエス様」
と呼んでいました。そして、長く、
御聖体を崇めました。

100年も前のポルトガルで、
まず、平和の天使が羊飼いの前にあらわれ、
愛、信仰と希望をもって、祈り、神様を礼拝するように教えました。
次に、聖母があらわれ、罪人の回心と、世界の平和のために、
毎日ロザリオの祈りを唱えるように言いました。

ファティマのメッセージとは、
祈りと犠牲とたえまない回心への呼びかけです。
これは、私たちの時代にも、一人一人、
すべての人に向けられたメッセージです。



JAPONÊS / 日本語

ffe familia fundación

Fundação AIS
ACN PORTUGAL

FUNDAÇÃO PONTIFÍCIA